新報

郵便局認可
明治十八年三月廿五日
(西暦一千八百八十五年)
水曜日
第九百二十五號
日曜日休刊

普通廳 府縣
八□遵傳染病豫防心得
通達加候條此旨相達
務卿 伯爵山縣有朋

ノ方法種痘苗採收及貯
議郡評知セサル可カ
施サヽルヲ可トス
種痘ノ爲ニ一時增殖
ノ土地ニ居住スル者
熱性病ニ罹リ居ル
春(三月四月五月)秋
ヲ然レ圧四季共ニ
抵止ノ部位)ニ於テ
貨等ニ隨フ)トシ各
紐互ニ密接セサル
針尖ヲ拭淨シ一時
拭淨スヘシ○第五
テ確實ノ良法トス
ノ痘苗ニヲ成ルヘ
ハ用ヒサルヲ可ト
脫スヘカラス 一
非常ニ大ナル者
疱非常ニ隆起シテ
ラヘキ色例ヘハ紅
常痘疱ノ近傍ニ在
既セル者 痘ノ中
痘疱ノ巳ニ化
痘疱變壞セシ者
舊美不良ノ者
シテ不善良ノ痘
天然痘ヲ經タル
ハ通常接種後第
書同シ)ヲ以テ全
書ヒ第七日又ハ第
普良其性ノ者ニシ
滴ノ如クナランヘ
込ヲ避テ痘苗ヲ
カラス○第九條
ルヘカラス反鼓
條 痘苗ヲ貯蓄
痘苗ニ貯ヘテ密
其間痘ヲ個貯シ
適宜ノ貯蓄法適宜
リ。)

第十一條 種痘ノ善惑不善惑ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點ト爲ス 一 接種後第二日以內ニ成形ヲ始メシヤ否 二 痘疱常形ニメ其大サ及硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否 三 紅暈ハ常形ナルヤ否 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ徴候ヲ呈スルヤ否 六 痂皮ハ黯褐色又ハ黒色ニメ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否○第十二條 種痘善惑ノ徴候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ 接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナル了無ナシ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小暈ヲ發スレ圧暫時ニメ消失ス(或ハ此暈ヲ見サル了アリ)第三日ニハ針痕ノ部ニ少ナル紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ユ(經過緩慢ナル者ハ第四日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スル了有リ)第四日ニハ紅色ニメ硬ク且隆起セル圓形若クハ橢圓形ノ小結節ヲ生ス 第五日ニハ結節細小ノ水疱ト爲リ其周圍ニ狹キ紅暈ヲ見ル 第六日ニハ水疱稍々增大シ其邊緣隆起シテ疱ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ疱中ニハ稀薄透明ニメ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々增大ス 第七日ニハ諸症益々增進ス 第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニメ周圍ハ焮腫シ微シク疼痛アリ疱中ノ液ハ倍々充實シ紅暈亦著シク增大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナク顏面ハ蒼白色ヲ呈スル了アリ又腋下ニ疼痛ヲ覺エ水脈腺腫起スル了有リ 第九日ニハ紅暈更ニ增大シ其色澤モ亦加ル 第十日ニハ疱液化膿シテ白濁或ハ黄色ノ濃稠液ト爲リ疱ノ中央稍々凹陷ス然レ圧其形必ス扁圓ナリ 第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スル了無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ疱ノ中央ヨリ邊緣ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス 爾後黯褐色又ハ黒色ニメ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊着シテ容易ニ剝離セス結痂後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ圓形又ハ橢圓形ニメ淺キ凹窩ヲ爲シ其窩內ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス、但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スル了アルモ其痘顆小ニメ七八日間ニ全ク經過スルヲ常トス○第十三條 種痘不善惑ノ諸徴ハ左ノ如シ 一 接種後第二日以內ニ成形ヲ始メ常形ニ違セスメ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下ニ硬キヲ覺ヘスメ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其陷凹ノ狀或ハ半球形或ハ圓錐形ト爲リ乾固スレハ黄色ニメ粗疎ナル痂皮ヲ結フ(時トメ第二日後ニ成形ヲ始ムル者アレ圧其經過總テ不整ナルヲ以テ自ラ善惑ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不善惑ノ者ト雖圧腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スル了無キニ非ス) 二 接種後第一日ニ大ナル紫色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ糜爛面ヲ呈シ或ハ濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル 三 紅暈邊ニ增大シテ膿疱ヲ成シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陷ル 四 第八日ニ至リ數疱相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス 五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル瘢痕ハ深クメ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

第十四條 初種ノ不善惑ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人ノ不感性ヲ有セルニ因ルモノナルカ故ニ□□二個ノ接善良ナル痘苗ヲ擇ヒテ再ヒ接種スヘシ○第十五條 種痘苗ヲ施スニ當テハ併發症ヲ防キ特ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ至ルマテハ殊ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レ圧受痘者已ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潛伏期ニ於テ接種スル了間々之アリ○第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖熱性病ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ○第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス

○宮內省告示甲第一號

福岡縣下 行幸來四月十日東京御發輦被遊候旨被 仰出候

右告示候事

明治十八年三月二十四日 宮內卿代理
宮內大輔伯爵吉井友實

時事新報

はあくす公使死去せり

清韓兼駐英國特命全權公使はりすミす ばあくす君ハ任所北京ニ於テ膓窒扶斯ニ罹リ病臥三日去ル廿二日ヲ以テ溘焉トシテ死去セリ君ハ四十餘年來東洋ニ在リテ日清韓及ヒ暹羅ノ間ニ周旋シ日本駐在英國全權公使タルヿ十數年遂ニ現官ニ累遷シタル人ナレハ一身東洋ノ利害ニ關スルヿ少ナカラズ故ニ我輩ハ此訃音ニ接シタル今日、英國ノ爲メニ一忠公使ヲ失ヒタルヲ弔セザルヲ得ザルナリ君ハ成童志ヲ立テ東洋ニ來リ廣東ニ福州ニ上海ニ譯官ト爲リ領事ト爲リ其後幾多ノ變遷ヲ經テ今日ノ榮官ニ昇リタリト雖圧英國ニ生レテ風俗習慣言語等ヲ異ニスル異鄉ニ奔走シタレハ朋友關繫ノ樂ニモ乏シク東洋諸國桑滄ノ變ニ際シテ苦慮焦心日又一日ヲ渉リ咸豐年中支那兵ノ爲メニ擒ニセラレタル時ノ如キ刀鋸ヲ以テ其降ヲ促カサレ拷掠笞杖並ヒ加ハリテ殆ンド死ニ抵ラントシタルヿアリ又身、未開國駐在ノ外交官タリシヲ以テ毎度領事家ノ爲メニ其隙ヲ窺ハレ安危不測ノ間ヲ經過シテ幾ヒ今日ノ地位ニ達スル間モナク一朝病ンデ起タザルニ至ル、其遭過ノ幸不幸果シテ如何ゾヤ抔ト思フモノモアラント雖圧我輩ヲ以テ君ヲ視レハ其生前ノ遭過ニ於テ蓋シ自カラ慰ムルニ足ルモノアル可シト思ヘル、ナリ初メ君ノ東洋ニ來ルヤ東洋諸國恰カモ開國ノ運ニ向ヒ我日本國ノ如キ維新改革ノ際ナリシカハ歐洲外交官ノ應接干涉スル區域モ亦廣ク其運動ノ自由ニシテ威福ノ行ハレ易キヿハ蓋シ空前絶後ナリシナラン特ニばあくす君ノ如キ身英國ノ外交官タリシヲ以テ東洋人ハ唯君ノ職權ニ對シテ畏敬スルノミナラズ其本國ナル英國ノ強大ナルヲ目指シテ益其畏敬ヲ深厚ニスルノ勢アリタレハ其威權ノ莊嚴ナル決シテ歐米諸國ニ駐在スル外交官ノ比ニ非ズ且ツ從來東洋諸國ニ駐箚スル外國公使ハ去就倏忽、乍チ來リ乍チ去ルヲ常トシタレハ名成リ功立ツノ餘間ナカリシト雖圧ばあくす君ノ如キハ來東以降四十餘年、全權公使ニ任シテヨリモ亦殆ンド二十年ヲ貴シタレハ君ノ功名ハ永ク東洋ノ歷史ニ垂レテ復タ磨滅スルコトナカル可シ或ハ歐洲外交官ノ榮譽ハ歐米文明ノ社會ニテ其功名ヲ博スルニ在レハ極東未開ノ國ニ來リテ其事業ヲ遺シタリトテ左マデ榮譽ニハ非ズト云ハン歟、歐米諸國ニテ尋常ノ外交官ト爲リ花晨月夕宴遊舞踏ニ暇リアル交際社會ノ小評判ヲ博シテ巳ムハ唐虞慘風ノ間ヲ經過シ嚴然メ外交官トシテ東洋億萬ノ國民ニ畏敬サレ功立チ名顯ハレテ大ニ其國威ヲ振フニ何レゾヤばあくす君今ニシテ逝クモ亦以テ自カラ慰ム可キナリ蓋シ君ノ我國ニ駐箚スル十八年、世間ノ毀譽モ亦隨テ一ナラズ我輩トテモ其行事ニ關シテハ時ニ慨然タリシヿナキニ非ザレ圧各其國ノ爲メニスルハ臣民ノ常情、英國ノ臣民タルばあくす君ニ於テハ勢然ラザルヲ得ザリシナラン故ニ我輩ノ君ニ於ケル曾テ其行事ノ是非ヲ論シタルヿアルモ未ダ曾テ其人ヲ咎メタルヿアラザルナリ、今ヤ東洋多事ニシテ支那海ニハ佛清事件アリ日清談判モ昨今天津カ或ハ北京ニテ開ケントシ又我國ノ外交上ニハ條約改正事件ノ繋カルアリばあくす君ノ如キ北京駐箚ノ一英公使ナルガ故ニ此等ノ事件ニ對シテ直接ノ關係ナキニ似タレ圧其東洋ニ居ルヿ久シク又其事情利害ニモ精密ナルノ故ヲ以テ明暗隱顯其勢力少ナカラザルヿ疑ナケレハ君ノ逝去ハ其影響スル所モ亦甚ダ廣キヿナラン、君ノ一身東洋ノ利害ニ關スルヿ如此シ、君今ニシテ逝クモ亦以テ地下ニ瞑ス可キナリ

雜報

○御尋 麝香間祗候龜井從二位(茲監)所勞の趣と聞食され御尋として御菓子一折下賜りたり

○日本銀行總裁 吉原重俊氏は何ゥ理財上の用向あるよしにて去る二十二日橫濱出帆の英郵船オシヤニック號に搭し米國通り英國へ赴き大藏大書記官河島醇氏も同船にて英國へ赴きたり前日の噂に吉原氏と同行渡英せるよし云ひ居たる橫濱のワツトソン氏も英郵船にてワンソ號にて一日先きに橫濱を出發し印度洋通り英國へ赴きたるよし

○監査として出張 三等主稅官戸叶正明氏は一昨廿三日、四等主稅官牛場卓造氏は去る十八日孰も大藏省に於て左の通り仰付けられたり

戸叶 正明
荒地開墾地年期明及地目變換等監査トシテ山梨縣長野縣へ出張被仰付候事

牛場 卓造
荒地開墾地年期明及地目變換等監査トシテ岡山縣廣島縣へ出張被仰付候事

○歸坂並歸縣 曩に上京せる大阪陸軍病院長一等軍醫正堀內利國氏は昨廿四日に出發歸阪し曩に上京せる平山廣島縣大書記官と一昨廿三日に曩に上京せる工部權少技長兼廣島縣御用掛小花冬吉氏は去る十日ゟ孰れも歸縣したり

○歸京並出發 曩ゟ利根川へ出張せる內務省土木局雇工師ムルドル氏は去る十七日に中村內務大書記官は去る廿一日に栃木縣警部長奉職中の事務引繼の爲め曩に同縣へ出張せる折田農商務省准奏任御用掛は去る廿一日に孰きも歸京したり又曩に阿仁鑛山局へ出張仰付けられたる紅林工部少書記官ハ一昨廿三日ゟ出發したり

○獨伊兩皇の厚情 伊國皇帝は先頃西班牙國にて震災に罹りたる窮民救恤の主意にて獨國皇帝ゟ金六千圓と贈られ又獨逸皇帝も西班牙國罹災の窮民へ四千圓と贈

與されたる由
○爆發黨處分
發の變ありし
モンド氏は直
と罰する方法
職せしが其議
凡合衆國ニ
ニ於テ官有
衆國若クハ
他人ヲ唆
テ爆裂藥ヲ
以上列記ス
トメル了ヲ
相當ノ罰ニ
右ノ惡事ニ
傚シ
凡爆裂藥ノ
ニ之ヲ用ヒ
ヲ助クル者

○北陸稅務協議會は本月
務協議會は本
○東京府會
芳野)是より
會と開くを告く
は可成迅速なる
ず議員中就職の
の時間と與へ
と希望す、議長
給三千六百八十
三十一番(須藤)
員四十圓に修正
其校の精神なれ
擧附せらるは最
べ五十番(志摩)
八番(木寺)は五
は常置委員の意
五十四番(橋本)
部)は五十二番と
は本年度より英
政府の優待もあ
原案と維持し最
り過半數にて常
常置委員の減額
五分開會數員は
學審議三名は常
項は四十八番(
べ四十五番(佐
曾谷)孰とも四十
員の修正せざりし
ひ其賛成者の說と
採決し四十八番の
、同第二項は四十
寧ろ前項と其儘
わりしかと是亦
等五圓二十五錢は
に亦常置委員の
と削除そ)の修正
決す、翌手當二
○夫人舞踏會
令孃等數十名ハ
樂會を催し畢て
○大祭の協議
來の大祭氣なりし
るよしと各氏予
○育兒院捐金
惠者の捐金は